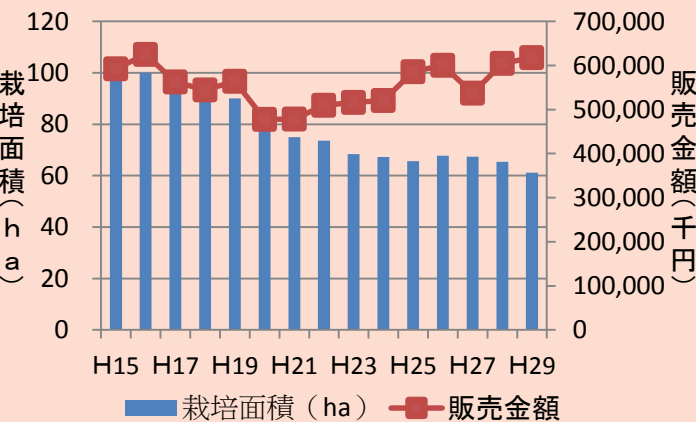


- 旭市飯岡地区はメロンの産地であるが、販売単価の低迷や土壌病害虫の発生により栽培面積が減少していた。
- 販売面の課題解決のため、**グループインタビュー**や**ネットリサーチ**等により**消費者ニーズ調査**を実施した。
- 栽培面の課題解決のため、現地課題調査研究と個別指導巡回を行い栽培管理の改善案を提案した。
- その結果、**販売金額は、平成20年の4億7,700万円から6億1,700万円へ増加した。**

## 具体的な成果

## 1 販売金額の向上

- 平成20年に4億7,700万円であった販売金額は、平成29年に6億1700万円へと増加した。
- 10a当たりの販売金額が初めて100万円を超えた。**



## 2 贈答用化粧箱等の開発

- 最上位等級品の有利販売のため、贈答用化粧箱を開発。
- 下位等級品から作成したピューレを利用した商品開発。



## 3 栽培技術の改善

- 土壌消毒方法**の改善。
- 栽培終了後のトンネルを活用した**太陽熱消毒**の普及。
- 適切な節位での着果**による品質向上。

## 普及指導員の活動

## 平成24年～26年

- メロンに対する消費者ニーズを把握するための**グループインタビュー**の実施。
- グループインタビューから得られた仮説の検証とメロンに対する購買行動や飯岡メロンの認知度を調査するために**ネットリサーチ**を実施。
- グループインタビューやネットリサーチの結果報告とそれらの調査結果を分析。
- 分析結果を基に、生産者を交えた今後の販売戦略の検討会の開催。**

## 平成27年～29年

- JAや県農林総合研究センター等の関係機関と連携**し、生育ステージごとに定期的な個別巡回指導を実施。
- 栽培管理と急性萎凋症発生に関する調査を行い、**調査結果に基づいた適切な土壌消毒方法や栽培管理について提案。**

## 普及指導員だからできたこと

- 普及指導員のコーディネート機能により、**生産組織、JA、県農林総合研究センター、行政等が連携**して販売面の課題解決に取り組むことができた。
- 普段の活動の中で直接農業者に接していたことから、**現地の課題の把握が可能**となり、その後の課題の解決策の提案、普及につなげることができた。

千葉県

## 新たな販売手法の検討及び栽培技術の改善による メロン産地の強化

活動期間：平成24年度～継続中

### 1. 取組の背景

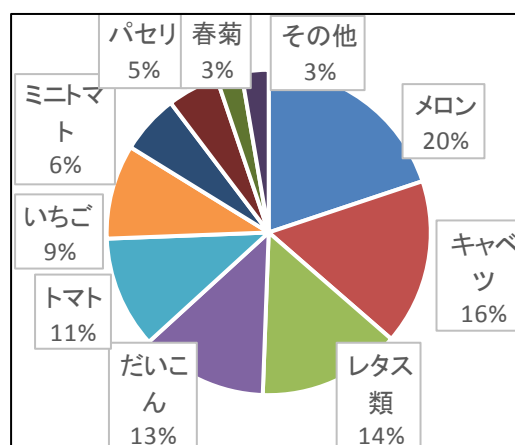
千葉県北東部に位置する海匝地域の中でも旭市飯岡地区は、露地野菜の生産が盛んな地域である。

旭市飯岡地区において、メロンは最も販売金額の大きい品目であり、秋冬作の品目が販売額の大部分を占める産地の中で、6～7月に収入を得ることができる貴重な品目である。しかし、近年の販売単価の低迷や土壌病害虫の発生による単収の下落により、栽培面積は平成15年の100haから年々減少していた。

このような状況の中で、JAちばみどり飯岡メロン部会の販売金額を増やし、県内トップクラスの産地を維持する必要がある。

そこで、メロンについての市場調査を行い、全国的な需要低迷の原因を探るとともに、飯岡メロンの販売戦略の検討やブランド化の推進、新商品の開発等を進めることで、販売単価の向上を目指した。

また、長年連作している圃場では、ネコブセンチュウ、ホモプシス根腐病、黒点根腐病等の土壌病害虫を原因として急性萎凋症が発生しており、単収及び品質の低下が見られた。急性萎凋症に対する適正な対策及び基本的な栽培管理の徹底を図ることで、急性萎凋症の発生を抑え、単収の増加を目指した。



旭市飯岡地区野菜販売金額の内訳



メロンのトンネル栽培の様子

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 販売単価向上に向けた活動

##### ア グループインタビューの実施

県農林総合研究センターの協力を得ながら、消費者モニターの方へグループインタビューを実施し、消費者ニーズの調査を行った。グループインタビュー実施時には、JAちばみどり担当者と部会役員も同席し、消費者の意見等を直接確認した。

## イ ネットリサーチの実施

グループインタビューから得られた仮説の検証を行うため、ネットリサーチを実施した。さらに、消費者のメロンに対する購買行動や飯岡メロンの認知度等、消費者ニーズ以外にも様々な情報収集を行った。

## ウ 販売戦略の検討

グループインタビューやネットリサーチの結果報告、それらを基にした今後の販売戦略の検討など、生産者を交えた検討会を開催し、情報の共有を図るとともに生産者自身が消費者ニーズの把握、販売戦略の検討を行う機会を設けた。

## (2) 単収向上に向けた活動

### ア JA ちばみどりと連携した個別巡回指導

メロンの栽培が始まる1月中旬以降、JA ちばみどり担当者と連携し定期的に圃場巡回を実施した。圃場の生育状況の確認を行うとともに、育苗期、定植期、交配期、収穫期等、生育ステージごとに栽培技術指導や栽培終了後の土壌消毒を含めた病害虫防除対策等の情報提供を行った。

### イ 栽培管理と急性萎凋症発生の関係に関する調査

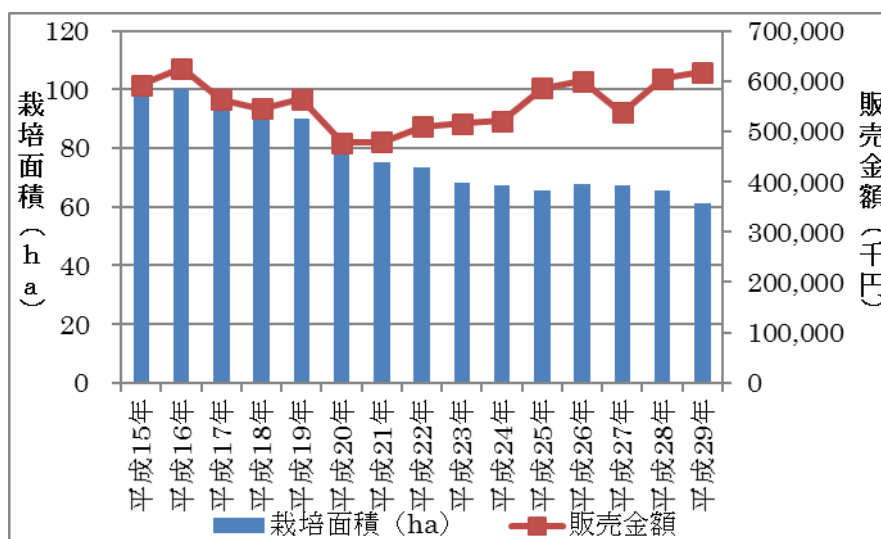
平成27年に急性萎凋症が多発し、販売金額が前年から約10%減少したことで、改めて急性萎凋症への対策が求められた。現地巡回を行う中で、栽培管理の違いが草勢の強さに関与し、急性萎凋症の発生に影響しているのではないかと考え、調査研究の課題として取り組んだ。

その結果、着果節位が低い場合や定植から交配までの日数が短い場合に急性萎凋症の発生が多かった。また、発生している土壌病害虫に適した土壌消毒剤の選択が行われていないことも確認できた。個別巡回指導や栽培講習会でこれらの情報提供を行い栽培技術の改善に役立てた。

## 3. 具体的な成果（詳細）

### (1) JA ちばみどり飯岡メロン部会販売金額の増加

飯岡メロン部会の栽培面積は依然として微減傾向であるが、平成20年に4億7,700万円であった販売金額は、平成29年には6億1,700万円となり、10a当たりの平均販売金額が初めて100万円を超えた。



JA ちばみどり飯岡メロン部会 栽培面積及び販売金額の推移

(2) 消費者ニーズに対応した販売促進

販売面の取組として、部会では販売単価の向上が期待できる上位等級品の贈答用化粧箱の開発や下位等級品を活用したメロンピューレの作成、消費拡大を目指したカットメロンへの取組を進めた。贈答用化粧箱の出荷数量、販売金額は年々増加している。



贈答用化粧箱

(3) 次作に向けた土壌消毒の実施

栽培面では、依然として急性萎凋症の発生は見られるものの、栽培終了後のトンネルを活用した太陽熱消毒や土壌消毒時の被覆の実施等、土壌消毒を含めた栽培管理の改善が進んでいる。

#### 4. 農家等からの評価・コメント（旭市・A氏（メロン生産者））

メロンの販売が低迷する中で、産地を盛り上げるために様々な活動や取組を行った。県の補助事業を活用した化粧箱の開発やピューレの作成、県農林総合研究センターの協力による消費者ニーズを把握するためのグループインタビューやネットリサーチもその活動の一環である。このような活動を地道に続けた結果、最近の販売金額の向上につながった。

#### 5. 普及指導員のコメント

##### （海匠農業事務所 改良普及課・普及指導員・茂田雅記）

今回の取組は、海匠農業事務所改良普及課の担当者だけでなく、生産組織をはじめ、JA、種苗メーカー、県農林総合研究センター、行政等の関係機関と連携をとりながら活動を進めてきたことで、栽培面、販売面の課題解決を図ることができた。また、普段の活動の中で直接農業者と接する機会を多く持っていたことが円滑な課題解決につながった。

今後もさらなる産地の発展につながるよう関係機関と連携しながら活動を進めていきたい。

#### 6. 現状・今後の展開等

(1) 急性萎凋症への適正な対策による単収の向上

急性萎凋症への対策は年々着実に進んでいるが、依然として発生が見られる。今後は、平成29年の10a当たり出荷量2300kgから2500kgを目指し、栽培技術の改善を進めていく。

(2) 飯岡メロンの有利販売に向けた取組

消費者ニーズ調査結果等を基に、JAちばみどり、メロン部会、県農林総合研究センター等の関係機関と連携しながら、有利販売に向けた戦略を検討し、取り組む。